

Q 市長のローカル マニフェスト

藤原 建志 議員



A 今後とも市政発展に努める

市長のローカルマニフェストについて伺う。

質問一 すぐに行う重要施策のうち、子育て支援と教育環境整備の充実について。

二 すぐに行う重要施策のうち、防災・減災対策の充実について。
三 今後4年間で、行う重要施策のうち、埼玉県農業大学校跡地への優良企業の選定の状況について。

答弁一（市長）

地域社会全体で子育てや教育に取り組む。具体的には、歯の健康づくり、子どもの読書力育成、放課後子ども教室展開、中学校外部指導者の充実等を進める。また待機児童の解消に向け民間保育所等の整備に対する支援、学童保育施設の整備等安心して子育てできる環境を整えていく。
二 想定外の災害にも的確に対応

できるよう、より実践的な防災訓練の実施など、地域の災害対応力を高め、安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいく。
三 知事と意見交換を重ねており、その中で、先進的な基礎研究施設を移転し、日本の産業をリードし、富を創造する新産業の集積を図りたいとの話があった。本市の将来を左右する重要な案件であり、市政、県政の発展に寄与する優良企業を誘致できるよう、慎重に、かつスピード感を持って進める。



Q 農業大学校の跡地 活用及び周辺整備

内野 嘉広 議員



A スピード感を持って進めていく

質問一 現在の進捗状況について。
二 周辺緑地、水辺の保全の考え方について。
三 周辺のインフラ整備について。
答弁一（市長） 本年度、県は農業大学校跡地内への産業集積に係る方向性について、市は周辺整備の在り方について、基本的な考え方を取りまとめた。また、並行して、県と市で情報交換を密にしなから、具体的な企業選定を進めているところである。
二 隣接する緑地や水辺を保全し、豊かな自然環境と調和した産業集積を図ることは、この用地活用の大きな特徴の一つである。緑地については、単なる保全にとどまら



運動公園内の太田ヶ谷沼

ず、様々な世代がニュースポーツによる健康づくりなどに活用できるように考えている。水辺については、大谷川の源流の一つである滝島井戸も含め保全、整備を図る。
三 道路については、圏央鶴ヶ島ICの南側を開口し、川越鶴ヶ島線を整備し、農業大学校側から圏央道への乗り入れを可能にしたい。また、それに接続する鶴ヶ島南通り線は、県道川越越生線への連絡と鶴ヶ島駅への動線を確保し、利便性を向上させる。
上下水道については、関係一部事務組合と、企業の活動開始に間に合うよう調整している。